

養護施設（ニュー・チャイルド・ケア・センター：NCCC）運営事業

事業分類	被災地・紛争地における自立・復興支援	1 貧困をなくそう	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	6 安全な水とトイレを世界中に
支援対象	シェムリアップ近郊の貧困家庭の子ども				
活動理由					
<p>カンボジアでは現在も貧困のため義務教育が受けられず、衣食住さえ充分とは言えない状況にある子ども達がいる。孤児、家庭での生活が困難な状況の子どもに対し、安心して生活できる環境のもと養育し、就学の機会を与え貧困の連鎖から抜け出し、自立していけるよう物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。</p>					
活動概要（2020年3月31日現在）					
【場所】 シェムリアップ州タクヴェル郡チェイ村 【子ども数】 15名（男子5人、女子10人）					
<ol style="list-style-type: none"> 教育：小学生はチェイ小学校、中学生はタイショウ中学校、高校生はソムダウア高校に通っている。新学年の授業が始まった11月、スライミエン(6年生)は5年生の時の成績が学年1位となり表彰された。副賞は自転車だった。 日本語は、小学校高学年はチェイ小 HG 日本語教室、中・高校生は NCCC での特設クラスで日本語を学んでいる。9月にスライニットが学芸館高校での1年間の留学を終え帰国し、高校2年生に復学。代わって、8月に高校の卒業試験に合格したスライホームが学芸館高校に留学。両名は12月の日本語能力試験3級(N3)に合格。他の子ども達も、日本への留学を目標に、2人を見習い、毎日頑張って勉強をしている。 また、情操教育として毎月第1・第3土曜日の午後、笠原知子氏が主宰する「小さな美術スクール」で、絵画を学んでいる。12月のHGスタディツアーのTシャツは、毎年子ども達がデザインしたものである。 里帰り：4月のクメール正月、9/10月プチュンバン(クメール盆)の年2回、子ども達はスタッフが付き添い里帰りをしている。プチュンバンの里帰りは、大雨のため日帰りとなったが、子ども達は保護者との大切な時間を過ごすことができた。離れていても家族との繋がりを保てるようにしている。 健康：5年前から、毎年12月にTAO(東洋医学研究会)の歯科医の先生方により歯科検診と虫歯予防教育を実施。子ども達の歯磨きの習慣も身につけ、確実に虫歯が減ってきている。 また、年に1度、クリニックで定期健診を受けいている。 野菜栽培：スタッフ指導のもと、子ども達が野菜作りに励み、かぼちゃ、オクラ、キュウリなどを収穫。農作業を通じて、子ども達は働くことの大変さ、大切さを学んでいる。12月に学芸館高校と岡山大学の生徒・学生達と一緒に土地を耕し、畑を広げることができた。 進路：体験の少ない子ども達の将来の夢は、学校の先生など身近な大人の職業であった。今は、教えることが好きだから学校の先生、料理を作るのが楽しいからコックさん、病気を人を助けたいからお医者さん、というように自分のこととして具体的な夢を持ち始めた。 交流：日本の団体、学校、個人の方の訪問や活動は、子ども達が多くの愛情を受け、世界を広げ、日本を理解し、日本に行く夢を強く持つ貴重な機会となった。 					
支援・協力団体					
(株)翌檜、高野山真言宗南真会、岡山せとうちライオンズクラブ、(株)パンネーションズ・コンサルティング・グループ、TAO 東洋医学研究会、大光電機(株)、AWHM、アニモチャリティバザー、HG 福島クラブ、岡山学芸館高校 SGH、岡山学芸館清秀中学校、岡山市立第三藤田小学校、他協力校、ハート・ペアレント、HG スタディツアー					



行ってきまーす！



畑の野菜は毎日の食卓に



定期検診「怖くない？」



南真会の皆様と一緒に祈り